

なにわ区

浪速区制100周年プレ企画

【第2回】 難波元町地域

戦前から戦後にかけての難波元町

区長 昔、難波元町の地域は「難波村」と呼ばれていました。昔のこのまちについて、教えてください。
木村さん 明治24(1891)年生まれのお祖父の話では、子どもの頃はこのあたり一面、葱(ねぎ)畑だったそうです。難波では米はとれなくて、染料の藍もとれましたが、ほとんどが葱だったと聞きました。

当時、「難波」は葱の代名詞で、食べ物「鴨なんば」も本来、鴨と葱という意味なんです。関東などでは「鴨南蛮」と呼ばれますが、この辺りでは鴨と葱だから「鴨なんば」。難波八阪神社に難波葱の由来を記した石碑があります。

深堀り！ 難波八阪神社

古来「難波下の宮」と称し、難波一帯の産土神(うぶすなのかみ)でした。祭神・素盞鳴尊(すさのおのみこと)が八岐大蛇(やまたのおろち)を退治した故事に基づいて始められたという綱引神事は、現在は毎年1月3日曜日に行われており、平成13(2001)年度には大阪府で初めての無形民俗文化財に指定されました。現在の社殿は昭和49(1974)年に改築され、巨大な獅子頭の形をした舞台があります。

竹立さん 大正時代になると、市電が走るようになりました。このあたりでは、湊町、賑橋、八阪神社前、元町5丁目、それから国道26号を通過して大國町、恵美須町の方向に上がり、阿部野橋に行く市電が走っていました。

区長 昭和に入ると、地下鉄もできました。

木村さん 戦後の話になりますが、私が子どもの時にも地下鉄を掘っていて、大きなやぐらを建てて、上からドスンと落とす、それを国道のところで端から端までやっていた。家が近くだっただけで、落とすたびに家が揺れたのを覚えています。

区長 戦前のこのまちは、どのあたりが賑やかだったのでしょうか。

竹立さん 戦前の元町は商売人のまちで、消防署の東側に「難波市場筋」という、駄菓子屋やおもちゃ屋、日用品などの問屋の商店街が南北に続いていた。河内の方からも関西線に乗って仕入れに来ており、とても賑やかな、今の空堀商店街のような石畳の商店街でした。

位上さん 官庁通りでもあり、郵便局や警察、消防署のほか、銀行もたくさんありました。

忘れてはならない3月13日

区長 竹立さんは、昭和5(1930)年の生まれと聞いています。子どもの頃のことを教えてください。

竹立さん 小学校は難波小学校の前身の難波新川尋常小学校に通っていました。当時の児童数は1,000人ほどいて、小学校では狭くて運動会ができないので、今の帝塚山小学校の近所の百姓家さんの広い土地を借りて運動会をしていました。戦争が激しくなる前まではそのように開催していたと思います。

中学1年生の時から、学徒動員のため軍需工場で働きました。工場では飛行機のラジエーター用の部品を塩酸で磨く仕事をしましたが、胸を痛み、その後は学校の事務を手伝いました。たまたま学校に行っても学校らしさはなく、校庭にはイモ畑があって、防空壕が転々としているだけ。学生時代という印象はほとんどありません。

昭和20(1945)年3月13日の空襲で浪速区は丸焼けになりました。そこらじゅうが火事になり、防空頭巾を着ているものを水で濡らして、ロータリーをあたりから高島屋(現在の南海なんば駅)まで父と2人で走って逃げました。着いたら、濡らしたものはみんな乾いていました。気が付いたら朝になっていて、周りにあった家が一夜にして何も無い。大きなつむじ風が吹いて、怖かったのを覚えています。

木村さん 父が戦争から帰ってきたとき、難波村は丸焼



【参加者】(左から)位上 謙二さん、幡多区長、木村 次郎さん、竹立 威三雄さん

けで「なんば焼け」という名前があったほど。うちの家も石の灯籠が1つ残ったくらいで、あとは全部焼けてしまいました。母がその灯籠の中に、疎開先を書いた手紙を入れておいたので、父がそれを見つけて疎開先まで迎えに来てくれたそうです。

竹立さん 大空襲でこのまちは焼け野原になり、非常に多くの方が亡くなりました。そのため私はずっと、「大阪の3月13日は忘れてはなりませんよ」と言い続けています。

終戦後に復学しましたが厳しい家計を支えるために中退し、教育を受けることができませんでした。子どもたちには、かつて今は違う時代があったということを知ってほしいですね。今はよい環境で勉強ができるので、教育を受ける機会があれば貪欲に受けてほしいと思います。

台風被害と戦後の区画整理

区長 そして戦後、浪速区は区民の皆さんとともに土地区画整理事業にとりかかりましたが、大きな台風被害にも悩まされました。

位上さん 6歳くらいの時にジェーン台風の被害に遭いました。当時、元町1丁目に住んでいましたが、畳の上に座っていたら畳ごと飛ばされました。家が木造で東と西で高低差があり、下から風が吹きこんで床が持ち上げられたのです。それで、千日前に住んでいた叔母の家に逃げようと家族でタクシーに乗りました。当時のタクシーはフォードの大きな車でしたが、かつての大阪歌舞伎座のあたり(現ビックカメラなんば店あたり)で、タクシーごと10メートルほど風に飛ばされた、地面に落ちたのを覚えています。

竹立さん 区画整理で土地を持っている者は皆、多い所では所有地の3割以上の土地を提供し、そのおかげで道路や公園ができました。区画整理後は消防自動車を通れない土地はなくなりました。浪速区は空襲でほとんど焼けて土地だけが残ったので、わりと早く復興したのではないかと思います。

木村さん 昔は関西本線が地上を走っていて、踏切が1か所、跨線橋もあったと思いますが、渡る場所があまりなかったのも、子どもの頃は一度も西の方に行ったことがありませんでした。区画整理で広い道ができて、西の方にも行きやすくなりました。

区長 今の「JR難波駅」は地下にあります。昔は地上にあるものを水で濡らして、ロータリーをあたりから高島屋(現在の南海なんば駅)まで父と2人で走って逃げました。着いたら、濡らしたものはみんな乾いていました。気が付いたら朝になっていて、周りにあった家が一夜にして何も無い。大きなつむじ風が吹いて、怖かったのを覚えています。

竹立さん 昭和30(1955)年頃、結婚式を終えた新婚夫婦が夜、湊町駅から「やまと」という特急に乗って新婚旅行に出かけるのをよく見送りに行きました。あの頃の新婚旅行は熱海や伊豆のあたりが多かったと思います。
位上さん 私も昭和38(1963)年に東京に進学すると

2025(令和7)年、浪速区は区制100周年を迎えます。その節目に先立ち、浪速区の歴史を区内11地域の皆さんと座談会で振り返る連載企画です。第2回では、難波元町の皆さんに当時の思い出やエピソードなどを伺いました。



(皆さん)貴重な地図や資料をお持ちください、昔の浪速区について教えてくださいました

き「やまと」に乗りましたが、多くの人たちが湊町駅まで来て万歳三唱して送り出してくれました。

変わりゆく南海なんば駅周辺

区長 ところで、南海電鉄の難波駅から南のあたりも大きく変わりました。

木村さん 今、高速道路が走っている下には昔、「新川」といってぶ川があり、そこでザリガニやカエルを釣りました。高島屋の西の方に蓬莱などの店がありました。あの辺りの家は皆、どぶ川に背を向ける形で西側を正面にしていたのですが、高速道路ができてきれいになったので、いつのまにか東側が正面になっています。

今のなんばパークスのところは昔、大阪球場がありました。子どものときは「南海ホークス友の会」に入っていたので月2回、無料で球場に入れました。球場の下には、スケートリンクや卓球場、こどもスポーツクラブなど民間の施設が入っていました。



大阪球場 なんばパークス 写真提供:南海電鉄

深堀り！ 難波御蔵・難波新川跡

江戸時代、災害時の救援米の備蓄と年貢米の集散を兼ねた「難波御蔵」がつけられました。明治になって廃止され、跡地に専売局のたばこ工場がつけられましたが戦争で焼失。戦後になり大阪球場が建設され、その後なんばパークスに生まれ変わりました。難波新川は、難波御蔵への運搬のために道頓堀川から堀を開削してつくられた運河でした。戦後、川は埋め立てられ、その跡地の上に阪神高速道路が建設されました。

位上さん 球場の東側には昭和25(1950)年に大きな「難波プール」ができました。弟が小学2年生の時、近所の子どもを集めてプールに連れて行く時、車に轢かれて亡くなりました。父が「小学校にプールがあればこんなことにはならなかったのに」と言って、昭和32(1957)年に学校、役所にプール建設のお願い・陳情を行い、浪速区の小学校では元町小学校のプールが1番早くできたと記憶しています。

区長 以前、この地域には難波小学校と元町小学校の2つの小学校がありましたが、児童の数が減ったため統合し、難波元町小学校として開校しました。大阪府では初めての出来事だったと伺っています。

竹立さん 今は我孫子に移転しましたが昔、月江院と

いう大きな寺がありました。その寺のなかに難波小学校が生まれました。今、その跡地に浪速スポーツセンターが建てられています。

区長 浪速スポーツセンターは難波小学校の跡地につくられたんですね。ところで、センターのある難波地域の町名は、以前は「難波中」ではなかったと聞きました。

木村さん 「難波中」は、もとは「新川」という町名でした。区画整理の時にいったん「新川」という町名に決まりましたが、「難波」という名前がついていないと、「新川」ではどこのことかわからないということで「難波中」に決められました。

昔は、「船出町」という町名もありました。船が出てきた(発掘された)ので「船出町」と名付けられました。「高島屋 船出別館」という建物も、今の住宅展示場のところがありました。今ではその町名もなくなり、そのこともほとんど知られていません。

深堀り！ 「鵜(いたち)川り船発掘の地」の碑

明治11(1878)年、いたち川と難波新川の貫通工事中に全長8m程のくり船(1本の木をくりぬいた船)が発掘されました。前後2本の楯でつづられ、継ぎ目の部分は釘を使わず巧みな仕組みになっていました。1,000年以上前のものといわれ、大阪城天守閣に展示されていましたが、戦時中の爆撃によって破壊されました。船出町の町名は明治33～昭和55(1900～1980)年まで使われていました。

難波元町の史跡について

区長 難波八阪神社には毎日、多くの方が訪れていま



す。なにか思い出はありますか。

位上さん 私は神社の獅子舞の「獅子子」(ししこ)で、今では巡行も午前中だけです。昔は朝から、氏子の区域を中心に1日かけてまわっていました。難波から堺筋まで行き、千日前通りを歩き、西は木津川までまわりました。高校生のころまで参加していたと思います。



写真提供:位上 謙二さん 難波八阪神社の獅子子(ししこ)。当時は、獅子子だけでこれだけの人数がいました。

木村さん 綱引きの巡行でも巻き寿司やアイスクリームをもらったり。あちこちの接待所でいろいろなものをもらえるので、それを楽しみにしていました。

今と、これからのまちづくり

区長 難波元町の歴史についていろいろ伺ってききました。最後に、このまちのことを、どのようにとらえておられますか。

竹立さん 難波元町は信仰心の篤い、結束力の強い、

良いまちだと思います。自慢をしたいのは、この狭い元町には「1社7カ寺」があること(難波八阪神社と7つの浄土真宗仏光寺派の寺のこと)。地域の人たちが相当努力しなくては、これだけのものを維持し続けることはできません。

位上さん 戦後は、新しい人が入って来て、商売人が一代で店を起こして活気のある町になりました。以前は個人事業者の社長がたくさんいました。少子化やサラリーマン化が進んで、地域の組織を運営するのが難しくなると感じます。それでも今、50歳前後で頑張ってくれる人たちがいるので、また良い時代が来ると期待しています。

木村さん 私はまちは生き物だと思っています。元町は一時、「元町パチンコ村」という地図があったくらい、鉄眼寺から八阪神社の南の正門までの間に、パチンコの機械をつくる会社・修理をする会社、椅子やのぼりをする会社などパチンコ産業に携わる事業所がびっしり入っていました。

今はインバウンドのまちなり、外国人観光客がいっぱい来ます。八阪神社の前は門前町のようになり、飲食物や売物や、貸衣装の店もあります。これからの元町がどこに行くのか危惧を感じますが、今はそんな状況も踏まえて、これからのまちの発展を考えることが大事かなと思っています。

座談会全文はこちら



難波元町地域年表

- 1885(明治18年) 阪堺鉄道(現南海本線)難波一和大川間開通 関西初の私鉄電車の開業となる
- 1889(明治22年) 大阪鉄道(現JR関西本線)湊町一柏原間開通
- 1896(明治29年) 阪堺鉄道が南海電鉄株式会社と改める
- 1904(明治37年) 難波御蔵跡にたばこを専売する大阪地方専売局大阪製煙所設置
- 1907(明治40年) 鉄道国有法が公布され、大阪鉄道が国鉄となる
- 1916(大正5年) 市電難波・木津線(賑橋一犬国町)開通
- 1938(昭和13年) 地下鉄(御堂筋線)難波一天王寺間開通 南海線難波一茶屋間の高架工事完成
- 1945(昭和20年) 爆撃により区域の約93%が消失、終戦。枕崎台風襲来
- 1948(昭和23年) 浪速税務署設置
- 1950(昭和25年) ジェーン台風襲来、大阪球場開設
- 1952(昭和27年) 大阪府立体育会館開館
- 1961(昭和36年) 大阪環状線開通、第2室戸台風襲来
- 1963(昭和38年) 市電賑橋一犬国町間廃止
- 1965(昭和40年) 地下鉄(四つ橋線)西梅田一犬国町間開通
- 1967(昭和42年) 阪神高速道路(道頓堀一湊町)開通(環状につながる) 浪速郵便局設置
- 1970(昭和45年) 大阪万国博覧会開催
- 1980(昭和55年) 住居表示一部を残し実施、なんばCITY開業
- 1985(昭和60年) 住居表示完了、難波小学校・元町小学校閉校 難波元町小学校開校(大阪府で初めての統合校)
- 1988(昭和63年) 大阪球場で南海ホークス最後の公式戦
- 1991(平成3年) 戦災復興土地区画整理事業が完了
- 1994(平成6年) 関西国際空港開港、JR湊町駅をJR難波駅に改称
- 2007(平成19年) なんばパークス全館開業
- 2023(令和5年) なんばパークス南側になんばパークスサウス開業

なにわマニア話 vol.2

名伯楽・佐藤信夫を育てた 大阪スケートリンク

かつての大阪は日本有数にスケート愛好家が多い都市でした。戦前のスケートリンクではABCスケート場(1931～1943年開場/中之島・大阪朝日ビル屋上)が有名で、フィギュアスケートの日本初のオリンピック代表選手・老松一吉(1911～2001)や女子フィギュアスケートの先駆者・稲田悦子(1924～2003)などが育っています。戦後は大阪の若者たちのあいだでスケートが大流行してスケート場に3時間待ちで入場するほどの大混雑ぶりに。そこで大阪商工会議所が昭和27年(1952)に資本金1億円で大阪アイス興業株式会社を設立し、船出町1丁目(現・難波中2丁目)に大阪スケートリンクを建設しました。この大阪スケートリンクでスケート指導を受けたのが佐藤信夫(1942～)です。前人未踏の全日本選手権10連覇を達成し、2010年には世界フィギュアスケートに殿堂入りしました。また名伯楽、名コーチとしても知られ、荒川静香(アジア人初のオリンピック金メダル)、安藤美姫(女子史上初4回転ジャンプ成功)、浅田真央(アジア人初の世界選手権シングル3回優勝)などを育て上げています。

出典は『浪速区史』

難波元町地域



大阪スケートリンク(浪速区史より)

むつさとし 陸奥賢さん 観光家/コモンズ・デザイナー/社会実験者

案内人